

青木健
伊藤氏賢
勝又浩
佐藤洋二郎
津村節子
富岡幸一郎
中沢けい
松本徹
松本道介

創作
高橋三千綱「モアイ像は歩いた」

増田みず子「春は来た」

三咲光郎「犬の名聲」

丸山修身「頂上の一夜」

各務麗至「謎」

青木哲夫「未踏の谷」

澤つむり「蛹の季節」

季刊 文科

71

特集

〈増田みず子〉

女性というテーマを超えて

対談 増田みず子／佐藤洋二郎

〈小沢美智恵 田中早咲 岸岡卓哉〉

新シリーズ・我が生涯の記

笠野頼子 千田佳代



同人雑誌・会員から

信じるものを売るところ

善積健司

文学フリマというイベントをご存知でしょうか。

文学フリマは、評論家の大塚英志氏の呼びかけによって二〇〇二年に始まった文学作品のフリーマーケットです。これまで東京・大阪・名古屋・金沢・札幌・福岡・前橋・岩手・京都等全国で多数開催されています。国内最大級の文学のイベントとして、会場ではプロ・アマチュア問わず、作者自身が出店者となつて「自分が〈文学〉と信じるもの」を販売しています。

私は大阪の文芸同人誌「あるかいど」に所属しながら、猿川西瓜という名前で「文学フリマ大阪」の副代表としてカタログの編集や代表の事務サポート等ボランティアとしてお手伝いをしておりま

て、本を買って、満足して帰って頂けるようにすることで必死です。いろいろなアイデアをいただいたりすることもありすが、結構それは身内の自己満足で終わりそうなものだったりします。「文学フリマ賞」をやつたらどうかと言われたこともありましたが、「なんでこの作品が選ばれるのか!」とか嫉妬やらなにやらに巻き込まれて疲れだけが残るので、企業とかにそういった賞ごととはまかせています。企画として定番にしているのは『傀儡舞』という舞踏の起源となつたものをイベント途中に会場内でお披露目することです。それに、今年は開催しませんが『ブースコンテスト』といって、「一番『ええな』」と思えたブースに投票する」というコンテストも企画しました。これによって出展者が「もつとブースを面白く、見やすく、買いやすくすべさだろう」とか展示に関して知恵を絞るきっかけになりました

事務局としての仕事はたくさんあります。参加者に参加証や通知を送る作業。ブースの配置は応募者が多いためいつも悩みの種です。雨が降った時の対応。飲食の販売車の手配。荷物の搬出入打合せ。懇親会と、ゴミ片付け。カタログの作成はプロレベルの方と連携して仕上げていきます。また公的機関の後援を得て、開催の宣伝を安く広く、市内中に送つたり掲示することもします。今年には休憩コーナーを作つてお客さんに長く滞在していただくことを考えています。「出展者が売り、出展者が買う」という「身内で満足する」というものから脱して、多くの人を呼ぶためにはまずは「知つてもらおうこと」を大切にしています。ネットや公共機関、大学にもチラシを掲示・配架依頼状と共に郵送しています。私は普段は事務員の仕事をしているので、こういったことは少し得意です。

た。でも、「本つて自分で作れるものなの?」という認識の人がほとんどで、そもそも「文字だけの本を読むの大変よねえ」が世の中の九〇%くらいかそれ以上と考えてもおかしくないのが現代です。活字を読むというのを、一人でも多く、普及させないといけないですし、プロもアマも平等で、みんなで楽しく販売するという自由な空間はとても必要なことだと思ひます。

今年の第五回文学フリマ大阪は二〇一七年九月十八日(月祝)、堺市産業振興センターイベントホールにて、十一時から十七時までやっていきます。入場は無料です。そこで、若い人、はじめて本を作る人、いろんな企画を本の中で表現する人、様々な人に出会っていただけじゃないと思います。たまに、本を売る人に向かつて文学とは何かを分かっているのかと説教するために会場まで来た

昨年は、堺市立中央図書館の一階展示ロビーをお借りして、「文学フリマ展」を夏休みの一カ月間開催しました。過去の文学フリマ大阪の記録写真や、出展者の本をガラスケースの中に配置しました。残念ながら、盗難防止のため、手に取つて読むことはできないようになりました。去年のカタログを無料配布として置いておいたのですが、いくら置いても見に行くとなすべてなくなつていました。はけ具合から、「文学フリマ」というムーブメントに関心もたれる可能性を感じました。

では文学フリマは何を目指しているのでしょうか。哲学的理念とかはあるのでしょうか。大塚英志氏の『不良債権としての「文学」』(『群像』二〇〇二年六月号)がその原点ですが、今ではランガナタンの『図書館学の五法則』の五番目のようなものと私は考えています。でも、今はイベントに来た人ができるだけ長く居

り、昔自分が出した本を宣伝するためだけに、自分を偉く見せるためにだけ来る人もいたりしますが、何かの押し売りはお控えください。ぜひ、本に遊び、楽しみ、そして気になつた本はどんどん買つていつていただければと思います。一般の流通には乗らないので、もう二度と手に入らないこともあります。

年齢・性別・国籍・受賞の有無・文章のジャンルその他全部関係なしの文学空間です。

そこで、黒い作業衣を着て、体力の限界をとくに過ぎている真っ青な顔つきのスタッフがいたら、それは私です。お待ちしております。

(大阪「あるかいど」編集委員)